

テクノロジーと社会・経済価値を繋ぐための 仕組み検討プロジェクト

2024/10/23

XGモバイル推進フォーラム

プロジェクト名称	テクノロジーと社会・経済価値を繋ぐための仕組み検討プロジェクト
リーダー	長谷川 史樹／三菱電機株式会社
サブリーダー	石津 健太郎／情報通信研究機構
活動目的、目標	<p>目的は、テクノロジーと社会・経済価値とをつなぎ、イノベーション力を最大化する活動（技術開発以外）へ投資するための仕組み作り。</p> <p>目標は、国内や海外の政府期間に対する仕組み作りの提言書の作成。</p> <p>1年目の成果は、テクノロジーと社会・経済価値とをつなぐためには、どのような仕組みが必要となるかを整理し、複数案に纏める。</p> <p>2年目以降は、1年目に作成した仕組みをもとに国内外の政府機関と、投資する価値があるか議論を行い、仕組みをブラッシュアップしていく。</p>
活動内容	<p>テクノロジーと社会・経済価値とをつなぐためには、どのような仕組みが必要となるか、関係者で議論して、整理を進める。</p> <p>整理した内容は、省庁関係者等としても投資する価値があるか議論し、ブラッシュアップする。</p>
活動計画	<p>月1回以上の会合を開催し、関係者で議論する場を設ける。</p> <p>1年間の活動イメージは以下の通り、</p> <p>10月～3月 テクノロジーと社会・経済価値とをつなぐための条件、課題の抽出・整理、想定する対象業界、業界内外の調査</p> <p>4月～6月 仕組みについて議論</p> <p>7月～9月 仕組み案作成</p>
想定アウトプット	テクノロジーと社会・経済価値を繋ぐための仕組みに関する提言書
活動期間	最大3年
その他	「産業間オーケストレーション実現プロジェクト」と連携して進める予定

VUCA時代と言われて、かなりの年数が経っていますが、不確実性は年々増してきています。産業界のエコシステムもピラミッド型からレイヤー型へ変革して構造自体が変わってきています。そのような時代においては、テクノロジーと社会・経済価値の間に存在する大きな溝（いわゆる死の谷と呼ばれるもの）をいかに埋めていくか、もしくは橋をかけていくか、がキーとなります。

本プロジェクトは、この大きな溝を埋めていく、橋をかけていくための仕組みについて検討を行います。

活動目的

目的は、テクノロジーと社会・経済価値とをつなぎ、イノベーション力を最大化する活動（技術開発以外）へ投資するための仕組み作り。

目標は、国内や海外の政府期間に対する仕組み作りの提言書の作成。

1年目の成果は、テクノロジーと社会・経済価値とをつなぐためには、どのような仕組みが必要となるかを整理し、複数案に纏める。

2年目以降は、1年目に作成した仕組みをもとに国内外の政府機関と、投資する価値があるか議論を行い、仕組みをブラッシュアップしていく。

活動内容

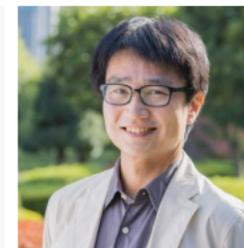
テクノロジーと社会・経済価値とをつなぐためには、どのような仕組みが必要となるか、関係者で議論して、整理を進める。

整理した内容は、省庁関係者等としても投資する価値があるか議論し、ブラッシュアップする。



プロジェクトリーダー

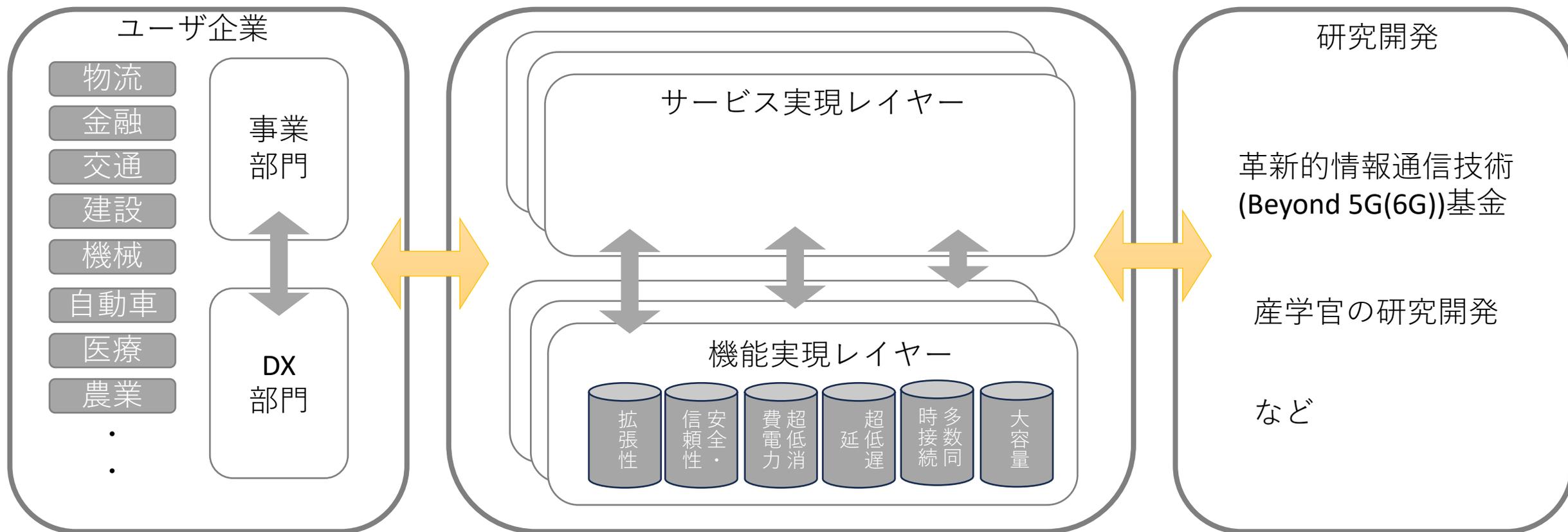
三菱電機株式会社
長谷川 史樹



サブリーダー

国立研究開発法人 情報通信
研究機構
石津 健太郎

5Gや6G等の高度な情報通信基盤が、早期にかつ着実に积淀に普及・浸透し、かつ、イノベーティブなサービスを生み出す基盤となるためには、情報通信企業とユーザ企業がサービス実現レイヤーや機能実現レイヤーなどで多層的に結びついていくことが重要





デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会 三菱電機の取組・提言

2024/3/29

三菱電機株式会社



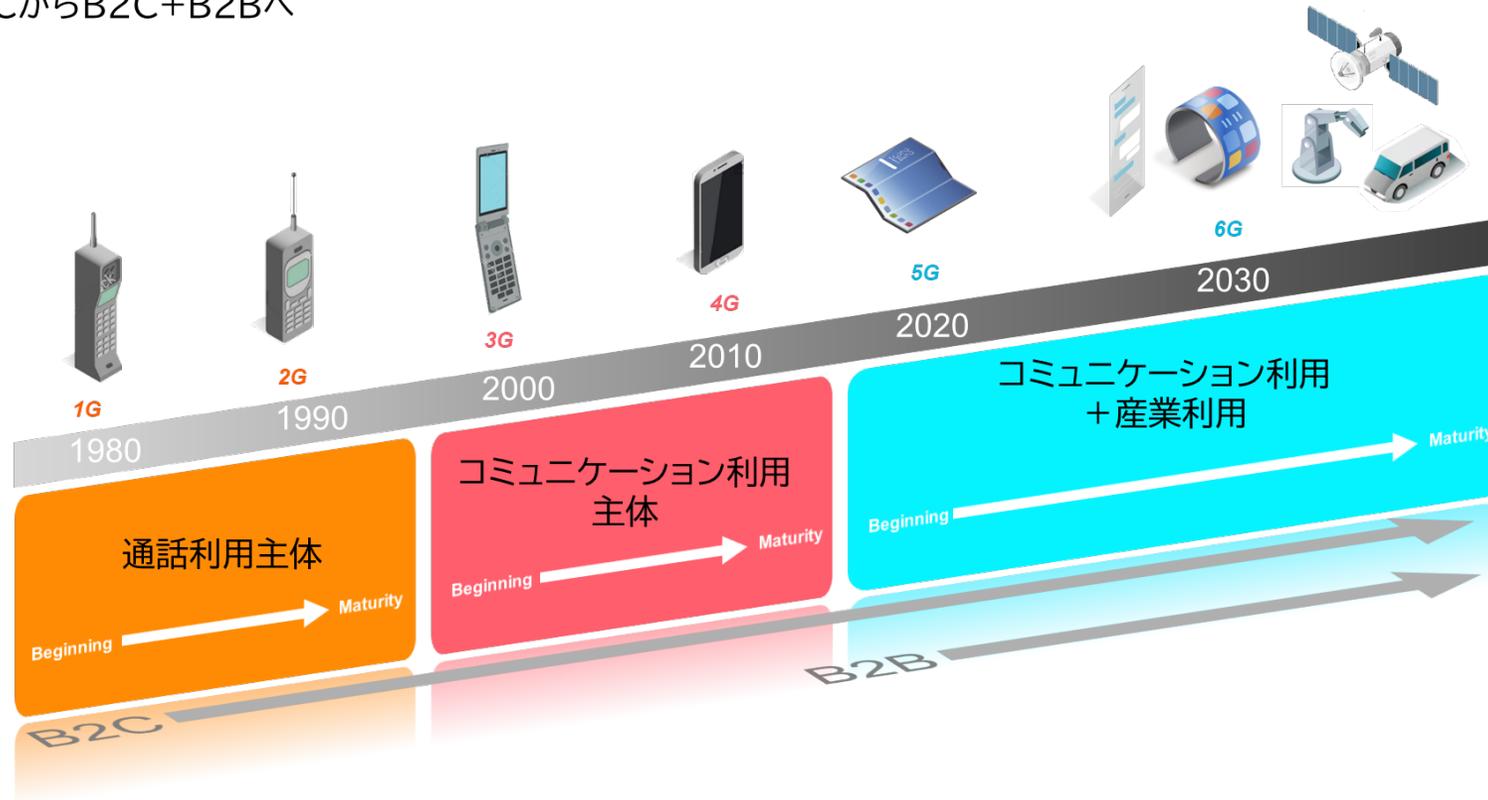
3

社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

©Mitsubishi Electric Corporation

3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

B2CからB2C+B2Bへ



3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

- アイデア出し**
RFI (Request for Information), ワークショップ、...
- アイデアスクリーニング**
ステークホルダーとの対話
- プログラム設計**
目的と成果物の明確化
広報
- プログラム運営・支援**
インクルージョンによる共創
イノベーション風土醸成
価値獲得に向けた行動
- モニタリング・分析**
将来に向けてのインサイト獲得

研究開発・試験事務・・・

✓ テクノロジーと社会・経済価値とをつなぎ、イノベーションを最大化する活動（技術開発以外）への投資

- 価値創造から価値獲得へ
- 研究開発アクセラレータ
- 業界横断エコシステムのマネジメント
- 包摂共生型価値獲得チーム（タスク型ダイバーシティ）

引用 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会(第1回) 森川座長提出資料

VUCA時代と言われて、かなりの年数が経っているが、不確実性は年々増している。産業界のエコシステムもピラミッド型からレイヤー型へ変革して構造自体が変わってきている。そのような時代においては、テクノロジーと社会・経済価値の間に存在する大きな溝(いわゆる死の谷と呼ばれるもの)をいかに埋めていくかがキーとなる

溝(GAP)を埋めながらエコシステム全体を更新

3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

Beyond 5G(=6G)が社会実装される2030年に向けて3フェーズ化でのアプローチが必要

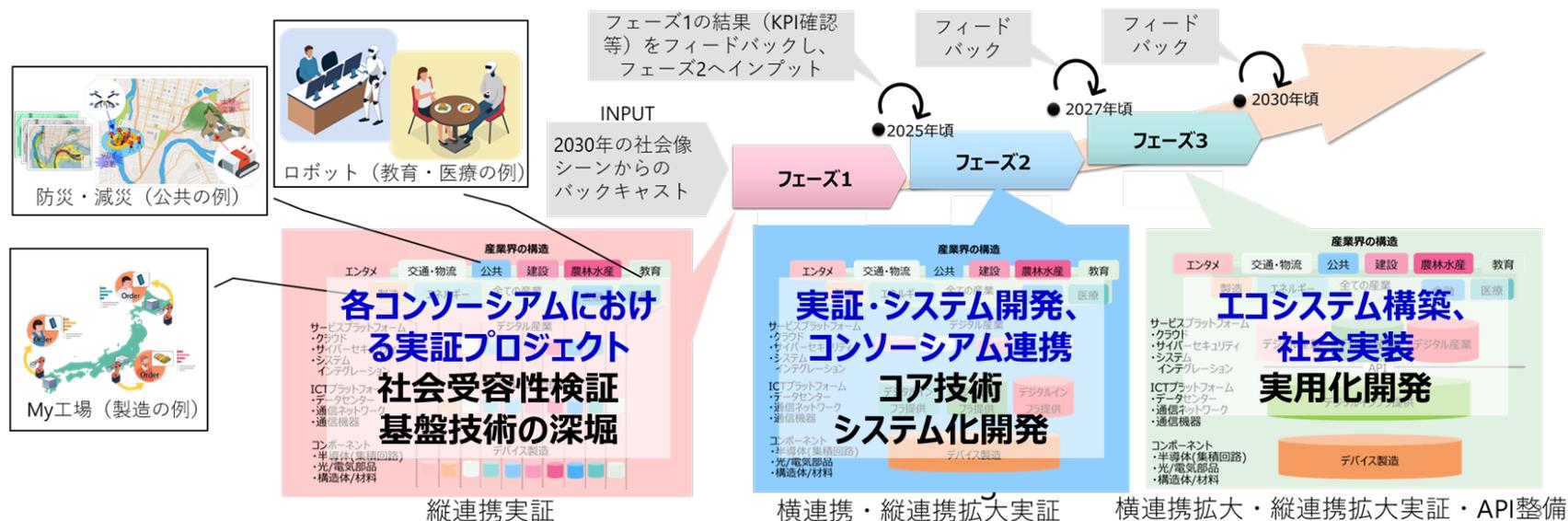
フェーズ1: **さまざまな業種のメンバーによるコンソーシアムを形成**
(各コンソーシアムにおける実証プロジェクト実施)

フェーズ2: 国内外からのフィードバックを活かしたシステム開発と **コンソーシアム連携**

フェーズ3: コンソーシアム連携に基づく **エコシステム構築と社会実装**

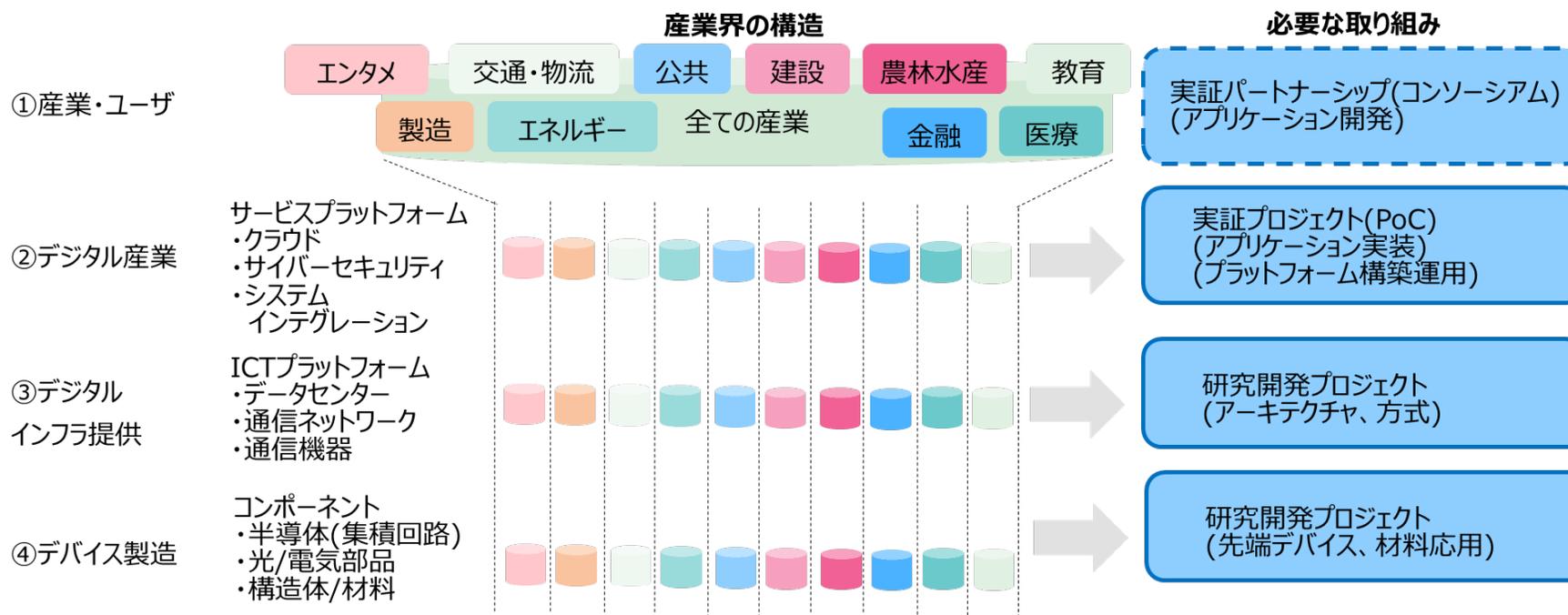


実用化に向けた技術開発・ソリューション検討にあたり、**情報通信分野と他セクター間との連携**が重要。そのため、情報通信分野と他のセクターが連携する場として、PoC推進基盤となる **コンソーシアム**や**実証の枠組み**が必要



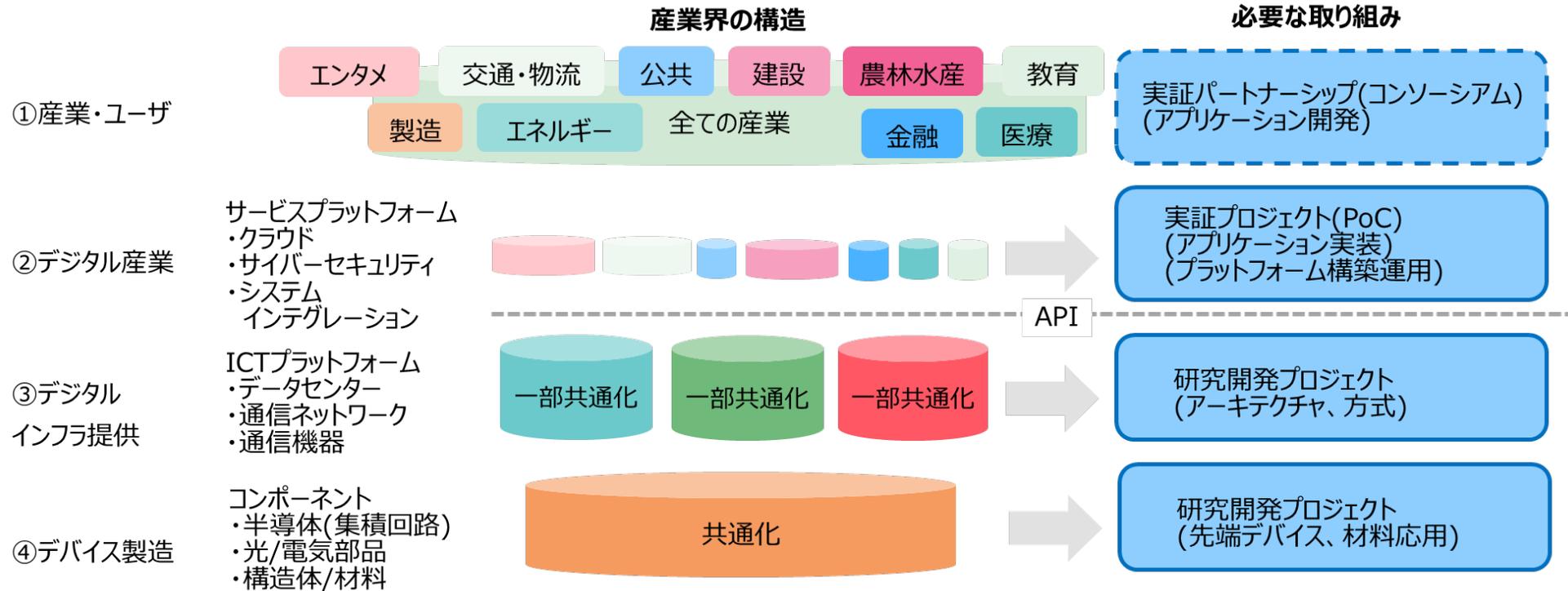
3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

- 産業界全体を4層(①産業・ユーザ ②デジタル産業 ③デジタルインフラ提供 ④デバイス製造)に分類
- フェーズ1:社会受容性を確認し、結果を踏まえて②③④の各層における基盤技術を深堀



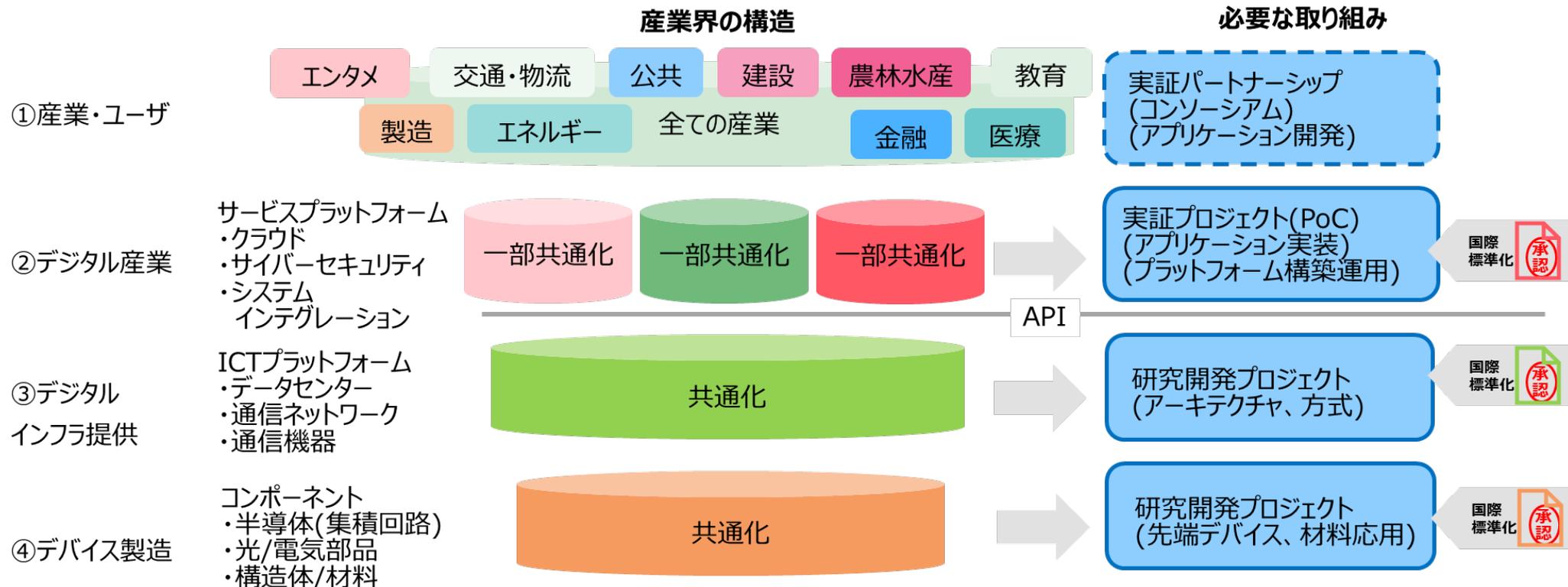
3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

- フェーズ2:④デバイス製造の共通化、③デジタルインフラ提供の進展、部分的な②デジタル産業のグループ化
- 社会実装(エコシステム構築)に向けた①産業界全体の仕組みづくりを開始



3 社会実装も見据えた研究開発・実証試験の在り方

- フェーズ3:③デジタルインフラ提供と②デジタルサービスをつなぐインタフェース(API)の整備
- 各産業はAPIを活用してライブラリ化されたアプリ機能やデジタル基盤を選択・組み合わせ、てサービスを構築
- 国際標準化により、グローバルな事業拡大を支援





XG Mobile Promotion Forum